



進路だより

平成 30 年 10 月 10 日
香取特別支援学校
進路指導部発行 No.3

8月30日(木)「就労・生活支援セミナー」が行われました

8月30日(木)に神崎町ふれあいプラザで、本校と佐原公共職業安定所、香取障害者支援センター共催で「平成30年度就労・生活支援セミナー及び県内1000か所ミニ集会」が行われました。

今年度は、就労支援グループと生活支援グループに分かれての意見交換会がメインのテーマとなりました。意見交換会では、就労支援グループには佐原公共職業安定所の佐伯公帥様、生活支援グループには香取障害者支援センターの辻内沙由里様と林康大様にアドバイザーとして入っていただき、保護者から事前に回答いただいたアンケートを基に意見交換が行われました。



◎意見交換会「就労支援グループ」

就労支援グループでは、企業就労に向けて様々な立場の方からご意見をいただきました。香取就業センターの岡澤和則様は、個々の障害や能力、適性に応じて仕事を見つけていく（仕事の切り出し）や会社内では人事担当者だけでなく現場の方々への理解（社内理解）が大切で、障害者雇用の拡大を図るため、社員向け研修を企画しているとのことでした。ハローワーク佐原の佐伯公帥様からは、仕事を選択していく上で判断の仕方や離職して再就職する方法などを大変参考になるお話をいただきました。笹川なずな工房で働く卒業生の方々からは、毎日充実して楽しい生活が送れているという嬉しい報告もいただきました。



◎意見交換会「生活支援グループ」

生活支援グループでの、意見交換の主なテーマは、「卒後の生活について」が大きなテーマとなり、「親亡き後の子供の生活について」「グループホームやケアホームについて」「圏域の虐待報告について」が話し合いの中心となりました。香取障害者支援センターの林康大様は、グループホーム等支援ワーカーという役職で、圏域のグループホーム利用状況や、実際に利用するまでの手順、金銭管理等について話していただきました。辻内沙由里様からは、圏域の虐待状況についてや、虐待があったケースでのセンターとしての関わり方等について話していただきました。保護者、学校職員、施設職員と、様々な立場の方からのご意見をいただき、活発な意見交換をすることができました。



◎アドバイザーからの総括

佐原公共職業安定所佐伯公帥様からの総括では、①圏域の障害のある方の就職状況について、②特別支援学校に通う生徒の就職までの流れについて、③ハローワークが行なっている支援について、④保護者並びに事業所の方へのお願いについてのお話がありました。在学中から卒業した後も、生徒、保護者、学校、ハローワーク、企業、医療機関を含めた関係機関と連携をとって、生徒一人一人を支援していくことが大切であることを話していただきました。

香取障害者支援センター辻内沙由里様からの総括では、①福祉サービスについて、②地域にある相談支援機関の役割について、③障害者虐待防止センターの役割について、④親なき後の生活についてのお話がありました。辻内様からも、障害のある方たちが、誰もが自分らしく、安心して暮らせるための支援を行う機関が、圏域にもいくつもあるので、各関係機関と連携をとっていくことの大切さを話していただきました。

アドバイザーの方からのお話や、意見交換会で話しあった内容の中で、「**連携**」というキーワードが出てきました。卒業してからの連携ではなく、在学中から各機関とのつながりを密接に持ち、色々な立場の方たちも交えて連携しながら、生徒一人一人の支援に当たっていきたくと改めて感じたセミナーでした。

10/23(火)福祉講演会があります!

10月23日(火)13時から14時30分まで、本校多目的室で**福祉講演会**が行われます。今回の講演会では、医療法人社団透光会ひだまりの所長えがわがすやの^{えがわがすや} 穎川一也様を講師としてお呼びさせていただきました。当施設の概要説明を始め、穎川様には、事業所所長というお立場から見た、卒業生が生活していく上で身につけるべき力について、在学中から心がけておくべき事などをご講話いただく予定です。小学部～高等部の各年代で身につけておくべき事等についても、お話しいただく予定ですので、ぜひご参加いただければと思います。

進路学習…小学部の取り組み

小学部では、達成感・存在感を感じられるように、学校生活のいろいろな学習や活動を通して一人一人を大切にしていっています。得意なことや好きなことをたくさんする、新しいことや苦手なことに挑戦する、友達や先生と仲良く協力する、きまりや約束を守るなど……。健康で柔軟な心をつくるのが進路学習につながっています。また自分でできることは行うようにも努めています。日直のような当番活動、係活動や掃除活動などにも取り組んでいます。係活動をした後、「助かったよ。ありがとう」の言葉に、子どもたちの満足した表情…こちら嬉しくなります。自分がやったことが認められることは嬉しいし、次の意欲にもつながります。このように小さなことを一つ一つ積み重ねていきたいと思いません。



清掃活動



当番活動



係活動